



平成二十九年度

書道研究・混陽会 活動方針

会長 安居暢翰

会長職を中川先生から引き継ぎましたのでよろしくお願ひします。

本会は中川先生が創設され、現在まで三十七年間にわたり代表・会長として本会の発展とレベルアップに尽力されてきましたが、この度、「会長」を交代されることになりました。「混陽会」では①書道上達の指導と②会の運営、企画、渉外などがあります。今後、中川先生は「師範」として①書道の指導に専念され、②運営などは当職他の執行役員が担うこととなります。

昨今の混陽会は、①各自の力を向上させる定期講座・教養講座、各種研修会などと、②創作作品の発表の場である混陽書道展・奏楽展・講座展などと、③公募展である読売書法展や日本書芸院展などに取り組み、書を志す会員にとって必要な環境が整いつつあります。

第 53 号

平成 29 年 3 月 31 日
書道研究 混陽会

〒524-0037
滋賀県守山市梅田町 1-7
(守山駅西口から
北へ約 100m)

URL: <http://www.kouyoukai-sho.com/>

編集人：改発蒼風



この環境を活用し、どのように自分の実力の向上に結び付けるかは、会員各位の志に対する姿勢ではないでしょうか。

書の評価には作品の「品格」が求められます。「品格」を得るためには「品質」即ち、書の「質」を向上させる必要があるのではないかと考えられます。

混陽会は混陽会員や教室会員の書の「質」の向上に支援を惜しむことはありません。

私は書の「品質」即ち、「線質」「字形」を向上させるにはどのような「法則」があるのかを悩んでいます。良い作品には一定の「品質」と「魅力」が求められ、これらには何らかの「法則」があるのではないかと思っています。

会員各位に於かれましては公募展に於ける目先の当落に拘ることなく、古典における「法則」の解析や現代書壇の「法則」の追及・習得などを続け自分の書の「質」の向上に研鑽される年として頂きたいと念じています。



1. 作品発表会について

1-1 混陽書道展について

従来の滋賀県立近代美術館の休館にともない、今年の会場は「大津市歴史博物館」へと移ります。会場の変更を「混陽会の飛躍」と捉え新しい会場配置で力一杯の作品を発表することにしたと考えています。このために作品の寸法や表装についても見直しを図ることとします。好評を得ています。「一字書」「全臨」は引き続き取り組むこととします。

1-2 奏楽展について

昨年から取り組んでいる大型作品展は今年も、五月に開催します。混陽書道展や公募展では表現できない作品に挑戦し取り組むこととします。

2. 公募展について

2-1 読売書法展について

公募展の中心と位置づけ今年度も積極的に取り組んでいくこととします。

2-2 日本書芸院展について

読売書法展、日展へ向けての力を養成する場と位置づけ取り組んでいくこととします。

2-3 日展について

基本的には随意としますが、日本書壇の最高峰の書展であり挑戦する会員には最大限の支援を行うこととします。

2-4 地方展（県展など）について

滋賀県は混陽会の活動の拠点でもあり、この地の書文化の発展と向上に寄与する為にも県展、市展等に取組んでいくこととします。

2-5 シルバー展について
生涯学習の一環との位置付けを明確にし、意欲的に取り組んでいくこととします。

2-6 勤労者美術展および道風臨書展への取り組みについて
出品を希望する会員には全面的に支援することとします。

2-7 滋賀読売競書大会
読売書法会系である「滋賀書作家協会」が主催する行事であること、滋賀県下における活動を広げるためにも全力で取組んでいくこととします。また、優秀な作品は身近な大津歴史博物館で展示され表彰されることも励みとなります。

2-8 成田山全国競書大会
重点を「滋賀読売競書大会」へ移しますが、出品を希望する教室には支援することとします。

2-9 全日本小学生・中学生書道紙上展
教室単位で取り組み、出品は任意とします。

3. 講座部について

3-1 定期講座
①古典講座、②古筆講座、③調和体講座は継続します。

会員の増加に伴い昨年新設した、④まほろば講座（臨書から創作まで）も継続します。

3-2 教養講座

書道を志す人の一般教養を習得することを目的に「教養講座」を開設して四年目を迎えます。この講座は参事を中心として、執行役員全員の協

力体制によって開催していく事とします。従来の「作品鑑賞会（観る創作勉強会）」や「篆刻、書道史、仮名条幅講習会」も含むこととします。受講者は混陽会員、全教室会員を対象とします。ので講座内容の周知徹底を図ることとします。

4. 講習会開催について

4-1 玄心会滋賀講習会について
書道界の動向を学ぶことと、半紙課題を含め初級者から上級者の実力向上を目的に五月に開講します。読売書法展や昇級昇段試験の直前でもあり対象者は大いに活用して頂きたい。

4-2 生徒部八段位講習会について
昨年同様に各教室で徹底指導することとします。尚、受験者は受験申込書のコピーを混陽会事務局へ届け出て下さい。

5. 研修活動について

会員相互の親睦と「書」に対する研鑽の場として様々な機会を捉え実現していく事とします。

6. 広報活動について

機関紙「混陽」の発刊について
会員に対する①行事情報の伝達、②書の技術情報紹介、③書に対する意識や関心を喚起する記事などを中心に構成し充実を図っていくこととします。

以上

講座作品発表会

二〇一七年一月十六日（月）十時から一月二十二日（日）十二時まで、守山市駅前総合案内所二階市民交流フロアにて、古典・古筆・調和体の講座で一年間学んだ成果を発表しました。

搬入は、一月十六日の午前九時半から行いました。撤収は総会の後持ち帰ってもらえる様に一月二十二日の十二時迄としました。

作品の点数は古典が半切十四点、調和体が半切三点と額五点、古筆が額七点でした。搬入には担当の方以外にも沢山の方に手伝って頂き早く展示が出来ました。ご協力ありがとうございました。



書道研究・澁陽会 平成29年度 役員・担当表

●:グループリーダー

役職・待遇	担当役員 (担当会員)	担当	
会長・理事	安居 暢翰	総合管理	
師範・理事	中川 翠玲	書道指導	
理事	伊部 芳翠	経営企画	
参事	山本 華泉 古川 圭翠	教育・指導	
参事	山本 青玲 久田 萌玉		
参事	井狩 遊雪 下村 荘香		
事務局局長 理事 中間 翠洸	●木村 香雪	会計・グループ	
	●井狩 遊雪 木村 静宵	総務・グループ	
	引間 京華 山田 翠陽	(行事实施管理)(文書管理)	
	若江 翠園	(機関誌発送)他	
	●改発 蒼風 河野 翠風	広報・グループ	
	伊部 芳翠 織田 蒼雪	(機関紙編集・発行) 他	
	井狩 遊雪 土田 純香	(最終確認・印刷承認:伊部)	
野口 虹翠	(発送先指定・保管:安居)		
●日下部雅苑	(西村 紅泉) (山川 桐葉)	研修見学・グループ	
●富田 蒼月		ホームページ更新・グループ	
作品展部長 副理事・堤 篁雲	中間 翠洸 実行委員会	澁陽書道展	
	中間 翠洸 実行委員会	奏楽展	
公募展部長 副理事 木村 香雪	●古川 圭翠 宮崎 恵舟	全国展・グループ	
	下村 荘香 河野 翠風	(読売書法展)	
	引間 京華 土田 純香	(日本書芸院展) 他	
	●若江 翠園	木村 静宵 野口 虹翠 織田 蒼雪 井上 照華	地方展・グループ (県展) (シルバー書道滋賀展) 他 《実行委員:木村香・宮崎》
	●宮崎 恵舟	(西村 春玲) (川田 幸洲) (壺井 翠華) (小濱 翠鳳)	競書紙上展・グループ (滋賀読売競書大会) (成田山全国競書大会) (小中生読売紙上展) 他
研究講座部長 副理事 富田 蒼月 (発表会を含む)	●山本 華泉	(星野 穂苑)	定期講座 古典講座
		(岩田 佳楓)	古筆講座
		(川田 幸洲)	調和体講座
			まほろば講座
	●久田 萌玉 古川 圭翠	教養講座	
	山本 華泉 下村 荘香		
山本 青玲 井上 照華			
井狩 遊雪			

監事	古家 峰翰	評議員	寺井 妙香
参与	属 琴泉	評議員	古株 崇溪
参与	吉岡 淨香	評議員	蜂谷 煌翠
参与	大島 祥鶴	評議員	柴田 翠湖
参与	山本 翠舟	評議員	玉木 桂華

おめでとうございます！



◆ 読売読書大会入賞者

- (一) 内、所属教室名・学年
- 団体賞・混陽会 (総出品数二六五点)
- 読売大賞・伊藤真優 (日吉・小六)
- 草津市教育長賞・壺井翠華
- 守山市長賞・宮本千結 (城北・小二)
- 金賞・川田幸洲、軸原伊織 (城北・中三)
- 宮本萌生 (城北・中二)
- 湯口晃多 (蒲生・小六)
- 狩野大輔 (文英学院・小四)
- 中間裕仁 (大萱・小四)
- 銀賞・井狩遊雪、中間翠洗、吉岡浄香
- 乾 碧洋 (むべの里)
- 井上恵華 (湖城・大二)
- 若江みずき (守山駅前・高二)
- 島崎寿映 (湖城・高一)
- 玉置倭子 (守山駅前・中三)
- 山本彩乃 (久野部・中二)
- 佐伯祥子 (守山駅前・中二)
- 平井大喜 (むべの里・小五)
- 宮本結生 (城北・小五)
- 南ゆず姫 (久野部・小四)
- 富田湊大 (蒲生・小四)
- 芦田ゆい (大萱・小二)
- 種田ゆら (文英学院・小二)
- 加藤歩夢 (文英学院・小二)
- 式部あかり (城北・小二)

右記の入賞された方々の作品は、四月二十八日(金)〜三十日(日) 大津市歴史博物館にて展示されます。(全国シルバー書道滋賀展と同時開催)

◆ 生徒部八段位昇段試験合格者

(平成二十八年十一月実施)

守山駅前教室	毛筆	中三	野田唯花
守山教室	硬筆	中二	長谷川啓秀
能登川教室	硬筆	中三	平尾かな
久野部教室	毛筆	中三	宝田珠菜
蒲生教室	硬筆	中二	山本彩乃
〃	毛・硬筆	中三	湯口真衣
〃	毛筆	中三	亀田未来美
〃	毛筆	中三	藤田紗帆
日吉教室	毛筆	中三	梶原彩香
〃	毛筆	中三	藪田彩菜

◎合格された方の中から、今回お二人の作文課題を掲載させていただきます。

「わたしと習字」

守山駅前教室 中三年 野田唯花

私が習字を習い始めたのは、小学三年生の頃です。七年間習ってきた「習字をやめたい」など思ったことがあります。それは、いつも優しく、わかりやすく教えてくれる先生たちや、一緒に書いている友達のおかげだと思います。そして、級や段が上がっていくのがとても嬉しいからです。

中学に入ってから、楷書以外にも色々な書き方があり、毎月の課題も難しくなってきました。毎年ある混陽書道展では、新しく練習してきた行書を一年生と二年生の時に書き、今年の三年生では、初めて隷書を書きました。隷書は、今まで練習したことがなかったので、思っていたよりも難しく、良い作品が書けるか心配だったけれど、錬成会などで色々直してもらったり、アドバイスをもらって、一年生には守山市長賞、三年生には芸術

文化祭奨励賞をいただくことができました。このような大きな賞をいただいて、本当に嬉しかったです。

今年は受験のため、少ししか練習できないと思うけれど、今まで教えてもらったことを生かしてこれからもがんばっていきたいです。

「わたしと習字」

能登川教室 中三年 宝田珠菜

私は、小学三年生から幼なじみの子と習字を習いはじめました。はじめは、お母さんに「字がキレイだと将来役に立つよ。」と言われて習おうと思っていました。しかし、同じ教室で習っておられた高校生の字を見ると、すごく上手に書かれていて私もあれくらい書けるようになりたいと強く思いました。それに、幼なじみに負けたくないとという思いもあり、家に帰ってからときどき練習していました。

習字をしている時、すごく集中して書くことができます。そのため、書いているとどんなに辛いなことがあっても忘れられました。時には、集中しすぎて気付けば肩の筋肉が固まっていたり、足がしびれていたりもしました。私はもともと猫背で姿勢が悪いのですが、習字をしている時は自然と背筋がピンと伸び、正座をすることができます。なぜかと思えば、習字の先生の指導のおかげだからです。小さい頃から、文字だけではなく姿勢や筆の持ち方を教えてもらいました。このことを、将来に絶対生かしていこうと思います。習字は私に、色んなものを与えてくれたような気がします。だから、これからも習字と関わっていかれたらいいと思います。

生徒部八段位とは？

日本習字生徒部の最高位です。合格すると「特待生」として、成人対象の手本で学習出来ます。合格された多くの方が特待生として学習を続けています。

試験内容は、①実技試験②理論試験③作文（題は『わたしと習字』）

◆ 県展入選者

井狩遊雪、山田翠陽、山田真耶

おめでとうございます！



温泉施設で作品展

二月一日から二十日まで、守山市にある温泉施設、「天然温泉ほたるの湯」で、混陽会員の作品を展示させていただきました。

施設内の休憩処とメイン通路の壁面に、守山市近辺にお住まいの混陽会員の方の作品十四点を展示いたしました。

とても多くの方に観ていただけたようで、作品と共に、書道研究混陽会の名を多くの方に知っていただける良い機会になったと思います。



今年の教養講座

● 「色紙作品」 講師 古川圭翠先生

(十一月六日開催)

今回の教養講座は「色紙作品について」開かれました。まず、色紙の歴史・大きさ・天地の見分け方・紙質の違い・落款印の種類と押し方・色紙作品の書き方の基本的なルールなどについて講義をして頂きました。

次に、それぞれ好きな言葉を選んで辞書で引き、半紙に草稿を作り、十分練習した上で色紙に清書するという流れでした。

今回参加された方からは、「少人数でしたが、途中色々とお話が弾み、とても楽しく勉強になる時間でした。」というご感想を頂きました。

● 「条幅の創作」

講師 中川翠玲先生
(十一月二十七日開催)

今回の教養講座は中川先生に条幅の創作について教えて頂きました。創作をするにあたり何を表現したいかをまず考えるのが大事だということでした。

題材は「筆花開處墨華濃」で、半切一行に創作しました。最初は辞書で、行書と草書を一文字ずつ選びました。次に文字の造形についてご指導頂きました。

① 行書で文字の大小、細太、連綿線（筆と花、開と處、墨と華）

② 行書と草書を組み合わせる文字の細太

③ 草書で文字の大小（花、濃を大きく）、連綿線（開、處）

④ 行書と草書を組み合わせる最初の三文字（筆、花、開）と最後の四文字（處、墨、華、濃）に連綿線

これらのことを学びながら、作品を仕上げていきました。創作するときに細かい線を入れると作品が華やかになると教えて頂きました。

三時間の内容の濃い、今後作品を創作するにあたり大変勉強になった講座でした。

● 「中国書道史後半」 講師 井狩遊雪先生

十月に開かれました中国書道史前半の講座に引き続き、十一月四日に後半の講座が開かれました。後半でも井狩先生が作成された年表と、中国書道史年表で時代背景を理解した上で、臨書に取り組みました。主に初唐の三大大家（歐陽詢、虞世南、褚遂良）の代表作の臨書をし、添削して頂きました。当日は急に出席できない方が増えて、参加された人数は少なくなりましたが、先生にしっかりと指導をして頂くことができました。

↓ 中国書道史講座



↑ 条幅の創作講座



【 平成29年度 年間行事予定 】

月	日	曜日	定期講座	教養講座	混陽展関連	その他
4	2	日	調和体			
	8	土	まほろば③			
	9	日		①隷書		
	16	日	古筆			
	23	日				奏楽展錬成会
	28~30	金~日				シルバー展
	30	日			実行委員会	
5	4	木(祝)				奏楽展準備
	5~7	金~日				奏楽展
	7	日				奏楽展片づけ
	14	日		②墨彩画		
	21	日	古典			
	28	日				玄心滋賀講習会
6	4~6	日~火				読売錬成会
	10	土	まほろば④			
	11	日		③刻字		
	18	日	調和体			
	24	土			臨書添削会①	
7	25	日	古筆			
	8	土	まほろば⑤			
	14	金			出品票提出	
	15	土			臨書添削会②	
8	16	日	古典			
	5	土			臨書添削会③ 中高生錬成会(八幡)	
	6	日	調和体			
	9	水			中高生錬成会(守山)	
	11	金(祝)			混陽展錬成会	
	12	土			中高生錬成会(八幡)	
	19	土			中高生錬成会(守山)	
	20	日			作品提出(高校生・成人) 葉書回収	
27	日			作品提出&審査(生徒部)		
9	3	日	古筆			
	10~12	日~火				日展錬成会
	16	土		④和綴じ		
	17	日	古典			
	18	月(祝)			実行委員会 生徒作品貼り付け	
	21	木			混陽展準備	
	22~24	金~日			混陽展	
24	日			混陽展片づけ		
10	1	日	調和体			
	8	日		⑤細字	清算〆切	
	14	土	まほろば⑥			
	15	日	古筆			
	29	日		⑥墨彩画		
11	5	日		⑦篆書		
	11~13	土~月				神戸講習会
	12	日		⑧書道史1		
	19	日	古典			
12	26	日		⑨裏打ち		
	3	日		⑩書道史2		
	8~10	金~日				飛燕展
	10	日	調和体			
	17	日	古筆			

教養講座のご案内

平成29年度の教養講座は、下記の日程で行います。皆様の更なる研鑽の場となりますよう、澁陽会員の方はもちろん教室会員の方にも、ふるってご参加頂きたくご案内申し上げます。皆様のご参加、お待ち申し上げます。

- ◆時間……10:00～13:00
(但し③は10:00～16:00)
- ◆申し込み……教室会員→各講座開催日の2週間前までに各教室の先生まで
……澁陽会員→各講座開催日の1週間前までに井上照華まで
- ◆場所……守山駅前教室
- ◆人数……各講座20名(申込先着順)
- ◆問合せ……富田蒼月まで

講座番号	開催日	講座名 (講師の先生)	講座内容	持ち物等
①	4月9日(日)	隷書 (山本華泉)	隷書(れいしょ)の基礎知識全般 隷書の書き方を学ぶ	筆記用具・書道用具一式
②	5月14日(日)	墨彩画 (久田萌玉)	半紙又は色紙サイズで墨彩画に書を添えた作品	筆記用具・書道用具一式・あれば顔彩
③	6月11日(日)	特別講座 刻字 (外部講師 披岸徹夫)	刻字の先生をお招きしての講座です 講座内容等は後日別紙にてご案内させていただきます この講座のみ申し込み締め切りは1か月前です	後日別紙にて案内いたしますが…… 掘りたい文字を書いた書・印影・新聞紙・滑り止めシート・あれば彫刻刀
④	9月16日(土)	和綴じ (古川圭翠)	和綴じの実演 全臨作品をご指導の元、綴じる	臨書作品・使用した半紙数枚・表紙の和紙や厚紙 など・めうち・長めの定規・へら・綴じ針・綴じ糸(刺繍糸など)・大きなクリップ2個
⑤	10月8日(日)	細字 (下村荘香)	お手本(智永の細字)を使い細字の書き方を学ぶ 日常に使える細字を学ぶ	筆記用具・書道用具一式
⑥	10月29日(日)	墨彩画 (久田萌玉)	半紙又は色紙サイズで墨彩画に書を添えた作品	筆記用具・書道用具一式・あれば顔彩
⑦	11月5日(日)	篆書 (山本華泉)	篆書(てんしょ)の基礎知識全般 篆書の書き方を学ぶ	筆記用具・書道用具一式
⑧	11月12日(日)	書道史1 (井狩遊雪)	中国書道史前半 書道史順をおいながら学ぶ 漢字の誕生の変遷を半紙に書きながら学ぶ	筆記用具・書道用具一式
⑨	11月26日(日)	裏打ち (久田萌玉)	裏打ちの実演・実践	霧吹き・新聞紙(2日分位)・フエキのり・タオル・のりを溶く容器・作品サイズより上下左右20cm位大きい白木の板、又は表面に白木の貼ってあるベニヤ板(こたつの板でもOK)・障子紙(出来るだけパルプ100%に近い物)
⑩	12月3日(日)	書道史2 (井狩遊雪)	中国書道史後半 書道史順をおいながら学ぶ 漢字の誕生の変遷を半紙に書きながら学ぶ	筆記用具・書道用具一式



【古典講座】
十一月二十日、古典講座を受講させて頂きました。はじめに池田先生が喪乱帖を臨書された数枚の作品を拝見しました。全紙サイズに拡大して書くのが大変だったというお話でした。
その後、一年間勉強してきた集字聖教序を半切サイズの作品に仕上げるために、何度か添削をして頂き、少し焦りながらも集中して取り組みました。
なんとか仕上げた中で一番の作品を選んで頂いた後は疲れも感じましたが、一月に開催される講座発表会を楽しみに今年度の最後の講座が終了しました。

八幡教室 土田純香

定期講座

(平成二十八年)

特別講座「刻字」の披岸先生の刻字作品↓
五月一日(月)から七日(日)まで、守山駅前総合案内所で刻字作品展を開催されます。先生の作品に触れる絶好の機会ですので、近くにお越しの際は是非足をお運びください。



【まほろば講座 平成二十八年度アンケート】

昨年からスタートした「まほろば講座」。一年間の講座を終えての受講者の声を紹介します。

「楷書・行書・草書それぞれの臨書や、かな・条幅・調和体など今までした事が無い事も、幅広く教えて頂けて、色々な事に触れる事ができて、楽しかった。」

「書の概要を勉強するのに、丁度良かった。」

「資料等を準備していただき懇切に、説明いただき勉強になった。」等の意見が出た一方で、学ぶ範囲が広いので、各テーマに対してもっと時間が欲しかったとの意見も。また、平日の開催を希望する声や、一年でなく長年の講座にして欲しいといった声もありました。

教室紹介 講師：井狩遊雪先生



月曜日の守山教室の講師をさせていただきます。井狩と申します。

夕方三時から六時、七時から九時のお稽古です。三時からには主に幼児から小学生、親子でお見えの方もおられます。七時から小学高学年から中学生高校生、また成人の方々がお稽古に来て下さっています。

駅前ということもあり、周辺のいろんなエリアからきてくださり、また夜の部は長年書道が好きで通ってくれているので、皆熱心で上手で静かな中で皆集中してお稽古に励んでいてくれます。身近に素晴らしい先輩が居ることで、継続は力なりで先輩に続けとお稽古に励んでくれたらなあと願っております。

今後の展示会の予定

第三十八回 混陽書道展

今年の会場は、従来の滋賀県立近代美術館の休館に伴い、「大津市歴史博物館・企画展示室A」に移して開催いたします。

また、会期は九月二十二日（金）～二十四日（日）の三日間となります。

会場の変更に伴い、屏風の展示が難しい事から、額装・軸装の作品が主体となりますが、好評を得ています。「一字書」「全臨」は引き続き取り組む予定です。

作品づくりは、例年通り臨書添削会や中高生練成会、成人錬成会などを計画しています。これらの詳細は四月三十日（日）に開催されます実行委員会において決まりますので、今から作品の構想を練り、力一杯の作品を発表したいと思います。

第二回 奏楽展

去年に引き続き、大型作品に挑戦します。混陽会員が新しい観点から表現の幅を広げ、技術の上達を目指し、三×八尺、四×八尺、四・八×八尺等の作品に取り組みます。是非ご高覧ください。

■場所：守山市民ホール 展示室

〒524-0051 滋賀県守山市三宅町一二五
 (近江鉄道バス・守山駅西口のりば より
 「杉江循環線」もしくは「守山市民ホール行」に乗り、
 「守山市民ホール前」下車)

■開催日時

五月五日（金・祝）・六日（土） 九時半～十七時
 五月七日（日）は九時半～十六時

【編集後記】

今年最初の機関紙です。今年度の混陽会は、新しい會長の下でのスタートです。混陽書道展の会場が変わり、教養講座には特別講座「刻字」が加わります。機関紙も新しいメンバーで頑張ってください。

宜しくお願い致します。

今年度の広報メンバー

- 改発蒼風 伊部芳翠
- 井狩遊雪 野口虹翠
- 河野翠風 織田蒼雪
- 土田純香